

中学校教育研究会の研修会に参加しました

令和6年8月21日(水)、山形市中学校教育研究会理科部会主催による研修会が、山形市内で開催され、当署から職員2名が参加しました。

この研修会は山形市内の中学校の理科の先生の方々が毎年行っているもので、今年度は、蔵王の樹氷を形成するオオシラビソの集団枯損をテーマとした研修会が企画され、令和元年より蔵王のオオシラビソ再生に向けて取り組んでいる当署に講演依頼があったものです。

当署からは、蔵王の樹氷を形作るオオシラビソ(別名アオモリトドマツ)の紹介や平成25年から始まったオオシラビソ被害の推移、枯死の原因となった昆虫(トウヒツヅリヒメハマキ、トドマツノキクイムシ)の生態などをご説明するとともに、オオシラビソの自生稚樹の被害地域への移植や種子を苗木まで育てる育苗等、オオシラビソの再生に向けた取組状況をご説明しました。

質疑応答では、自生稚樹の採取場所、移植したオオシラビソ稚樹とササをはじめとした他の植生との競合、オオシラビソ枯損被害の予防の可否など、活発なご質問をいただきました。予定時間を多少オーバーするほどの充実した時間を過ごすことができました。

また、当署ではオオシラビソの苗木を種子から育てるために、オオシラビソの球果(まつぼっくり)を毎年採種していますが、当日は採取の実演も併せて行いました。球果採取は長さ12mの検測桿(けんそくかん)の先に刃を取り付けて行いますが、室内なので刃物は使用せず、球果に見立てた袋をカギで引っかけて釣り上げる模擬採種を体験していただきました(写真右)。

当日は、山形県から行われた樹氷復活県民会議の活動報告と合わせて、県内中学校の理科の先生方に蔵王のオオシラビソ林の再生に向けた取組について知っていただく貴重な機会となりました。

